【開催報告】創業者のための生成AI活用入門 「何もしない」が最大のリスク

分類：ブログ ｜ 投稿日：2026-03-30 ｜ 最終更新日：2026-03-31



こんにちは、おおいたスタートアップセンターの中本毅です。

2026年3月27日(金)、当センターのセミナールームにて「創業者のための生成AI活用入門＆相談会」を開催しました。講師を務めたのは、当センターのDX・AIアドバイザーである栗山浩一氏（中小企業診断士）です。

日々進化を続ける生成AIを、創業期にどうビジネスに取り入れていくべきか。熱気あふれるセミナーの様子をレポートします！

■生成AIの現在地と「何もしない」リスク

セミナーの冒頭、栗山氏は大分県内の中小企業におけるAI活用の現状について触れました。関心がある企業は多いものの、実際に組織的に業務で活用できている企業はまだ少ないというギャップがあります。

しかし、人手不足やコスト高が深刻化する中、いち早くAIを導入して業務効率化を図る企業とそうでない企業の「AI格差」は、数年後には取り返しのつかないレベルで開いてしまいます。「何もしないことが最大のリスクである」という言葉に、参加者の皆様も真剣に耳を傾けていました。



■驚きのデモンストレーションの連続！

セミナーの中盤では、実際にAIツールを操作しながらのデモンストレーションが行われました。

＜Genspark を使った創業計画書の作成＞

少しの指示（プロンプト）を与えるだけで、「大分発！地産地消の宅配弁当プロジェクト」の市場調査や競合分析、事業計画のスライドがあっという間に自動生成される様子が実演されました。

＜Geminiで口コミ分析とアイデア出し＞

飲食店のGoogleマップの口コミをAIに読み込ませ、「優秀な経営コンサルタント」という役割を与えて分析させるデモが行われました。強みや改善点、さらに隣に新しい店を開く場合の戦略まで瞬時に提案してくれるAIの能力が紹介されました。

＜NotebookLMで安全に社内情報を活用＞

参加者の関心を特に集めたのが「NotebookLM」です。インターネットの情報を見に行かず、自社でアップロードした就業規則やマニュアルなどの資料からのみ回答を生成するため、情報漏洩のリスクなく安全に利用できる点が解説されました。さらに、観光協会のホームページを読み込ませて、ラジオ番組のような対話形式の音声解説（ポッドキャスト）を自動生成する驚きの機能も披露されました。

■生成AIは万能？創業者が意識すべきこと

デモを通じてAIの凄さが伝わる一方で、栗山氏は「AIが作った創業計画書は、見栄えは100点でも中身は30点」と指摘しました。生成AIは世の中の情報を整理して見せることは得意ですが、そこに創業者の「思い」や「独自の強み」は含まれていないからです。

調べ物や情報整理、フレームワーク作りのような単純作業はAIに任せ、それによって生み出された時間を、ビジネスプランを深く考えブラッシュアップするために使うことこそが、AI活用の最大のメリットだと強調しました。

■安全な導入に向けて

AIを業務に導入する際の3つの約束として、以下のルールが説明されました。

①情報セキュリティ:
公共の掲示板に書けない情報（個人情報や機密情報）は入れない。

②正確性:
AIのもっともらしい嘘（ハルシネーション）に注意し、最終チェックは人間が行う。

③著作権:
AIの出力はあくまで「下書き」とし、そのまま丸写しせず自分の言葉で手直しする。また、ビジネスで本格的に利用する場合は、入力データがAIの学習に利用されない「法人向けの有料プラン」を活用することが、会社を守る保険になるとのアドバイスもありました。

■Q&Aセッションと参加者の声

質疑応答では、「AI登場前後で栗山さんご自身の仕事の仕方はどう変わりましたか？」という質問がありました。これに対し栗山氏は、「調べ物などの単純作業にかける時間が減り、本来考えるべきことに頭を使えるようになった。また、AIから期待する回答を引き出すための『質問力』を考えるようになった」とご自身の体験を交えて回答されました。



受講後アンケートでも、「プロンプトを入力する前にAIに役割を与えるということを知らなかった」「様々なAIサービスを知ることができた」「Google Workspaceの活用方法が役立った」といったお声をいただき、皆様にとって実りある時間となったようです。

おおいたスタートアップセンターでは、今後も創業者の皆様のビジネスを加速させるセミナーやイベントを毎月企画してまいります。次回のイベントもどうぞお楽しみに！